

令和 3 年度

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

伊那市教育委員会

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

- 伊那市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき実施するものです。

（参 考）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関係条文抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 点検・評価は、令和2年度伊那市教育委員会重点施策の達成状況を対象とします。
- 上記重点施策に関連する事務事業は、2～3ページの一覧表のとおりです。
- 自己評価については、概ね下記の基準によります。

評価	内 容
A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
C	一定の成果は上がっているが課題もあり、改善の必要がある
D	成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

- 「教育委員会評価委員」による点検・評価についての意見は、最終ページに記載しています。

令和2年度伊那市教育委員会重点施策に関連する事務事業一覧

No.	重点施策	事務事業名	評 価	備 考
第1節 地域への愛着と誇りを育む教育				
1－1： 学校教育				
1	学校教育の充実 学校・家庭・地域の連携強化	総合的な学習	A	学校教育課
2		キャリア教育の推進	A	学校教育課
3		幼保小中の連携	B	学校教育課
4		読書活動の推進	B	学校教育課
5		学校備品整備・情報教育	A	学校教育課
6	きめ細やかな学びの支援	学力向上	A	学校教育課
7		特別支援教育	B	学校教育課
8		外国籍児童生徒の支援	B	学校教育課
9	安心安全な給食と食育の推進	給食運営・給食施設整備	B	学校教育課
10	学校施設の耐震化・長寿命化と適正配置	学校施設の耐震化・改修整備	A	学校教育課
1－2：教育連携				
11	高等学校との連携	高等学校振興	B	学校教育課
12		私立高等学校振興	B	学校教育課
13	大学との連携	信州大学・東京藝術大学との連携	C	学校教育課
1－3：心の教育				
14	不登校対策の推進	中間教室	B	学校教育課
15		不登校児童生徒支援ネットワーク	B	学校教育課
16	虐待防止対策の推進	子育て教育支援相談、家庭児童相談	B	学校教育課
17	いじめ防止対策の推進	子どもと親の相談員の配置	B	学校教育課
18		スクールカウンセラーの配置	B	学校教育課
1－4：青少年健全育成・家庭教育				
19	子どもの居場所と安心安全の確保	少年補導委員会・少年補導センター	B	生涯学習課
20		学童クラブ	A	生涯学習課
21	地域・関係機関との連携による家庭教育の充実	青少年育成対策	C	生涯学習課
22		成人式	C	生涯学習課
第2節 生涯にわたる学びの支援とスポーツの振興				
2－1：生涯学習				
23	生涯学習・社会教育の推進	市民大学・市民大学大学院	B	生涯学習課
24		桜大学	C	生涯学習課
25		長谷生涯学習講演会	A	生涯学習課
26		社会人権同和教育	B	生涯学習課
27		学校人権同和教育	B	学校教育課
28	公民館活動の推進	集会施設建設等補助	B	生涯学習課
29		公民館建設	A	生涯学習課
30		公民館共同事業	C	生涯学習課
31		公民館事業	B	生涯学習課
32	図書館の充実	蔵書管理	B	生涯学習課
33		図書館イベント	B	生涯学習課
34		図書館分館	B	生涯学習課

2－2：文化・芸術				
3 5	文化芸術の振興と地域文化の育成	進徳館の日	C	生涯学習課
3 6	文化財の保存・継承・活用	史跡高遠城跡	B	生涯学習課
3 7		民俗資料館	A	生涯学習課
3 8		旧井澤家住宅	B	生涯学習課
3 9		民俗文化の伝承	B	生涯学習課
4 0		市誌編さん	A	生涯学習課
4 1	文化芸術施設の充実及び活用	創造館	B	生涯学習課
4 2		高遠町歴史博物館	B	生涯学習課
4 3		信州高遠美術館	B	生涯学習課

第1節 地域への愛着と誇りを育む教育

児童生徒らが自ら生きる力を育むために、「はじめに子どもありき」の教育理念のもと、郷土の教育資源を生かした食育やキャリア教育をはじめ、体験や対話を重視した人間性に満ちた教育により、心豊かな人づくりに取り組みます。また、豊かな自然や歴史文化に恵まれた郷土の魅力を学び、ふるさとに対する誇りや感謝の気持ちを育むとともに、郷土愛を受け継ぐ次の世代の人材育成に努めます。

1－1： 学校教育

教育理念「はじめに子どもありき」を具現化するため、「学校教育の充実、学校・家庭・地域の連携強化」、「きめ細かな学びの支援」、「安心安全な給食と食育の推進」、「学校施設の耐震化・長寿命化と適正配置」を図り、全ての教育活動を「子どもに発し、子どもに還る」ものとするよう努めます。

(1) 学校教育の充実、学校・家庭・地域の連携強化

事 務 事 業	No.1	総合的な学習		R2 年度決算額	6,271 千円
事業の目的	子どもたちの生きる力、郷土を愛する心を育むため、地域の自然や歴史、文化を学習するなど、子どもの求めや願いを大切にしたい伊那市らしい総合的な学習を推進します。				
事業内容	各学校が主体的に取り組む「体験学習」、「交流学习」、「体力づくり」など創造的な学習の支援				
達成状況	○全小中学校において、地域の特色を活かした総合的な学習を実施しました。 ○創造的活動推進事業交付金、信州型コミュニティ・スクール交付金を、全小中学校に交付しました。				
	区分	学校名	令和2年度主な取り組み		
	小学校	伊那	動物飼育（やぎ・羊他）、農作物栽培と調理、伝統文化の学習など		
		伊那東	稲・野菜栽培、地域文化学習、方言調べ、オリンピック学習など		
		伊那北	稲・野菜栽培と調理、里山利用と整備活動、季節行事、環境保全など		
		伊那西	稲・野菜・動物飼育、豆腐作り、チョウ・野鳥観察、学校林学習など		
		富県	稲・小麦・野菜栽培、地域探検、花栽培、まつたけ・キャリア学習等		
		新山	地域・歴史・新山トンボ学習、保育園との野菜作り・交流活動など		
		美簗	もち米・大豆栽培味噌づくり、井月学習、特産品調べ・地域学習など		
		手良	稲・野菜栽培・調理、福祉・パラスポーツ体験、手良つ子太鼓活動等		
		東春近	稲・大豆・野菜栽培、老松場探検・学習、二分の一人式、花栽培等		
		西箕輪	稲、大豆加工品作り、養蚕学習、養護学校との交流、伝統行事活動等		
		西春近北	野菜・大豆栽培学習、地域太鼓学習・漬物作り、地域探検学習など		
		西春近南	稲・野菜栽培と調理、食農学習、オリ・パラオリンピック学習など		
		高遠	稲・野菜栽培、豆腐作り、和太鼓体験、伝統芸能の学習、進徳館等		
		高遠北	小麦・野菜栽培、春・秋花壇活動、地域探検、音楽創作、太鼓など		
		長谷	稲・野菜栽培、孝行猿劇、災害・防災学習、地域学習、ICT 学習など		
	中学校	伊那	自然体験、農業体験、職場体験、地域産業学習等ふるさと伊那谷学習		
		東部	農業・食文化・郷土食学習、キャリア学習、伊那市ウォークラリー等		
		西箕輪	福祉体験・福祉交流、職場体験、保育園・伊那養交流、和太鼓演奏等		
		春富	キャリア教育、職場見学・体験、野菜栽培、地域探訪、学習発表会等		
		高遠	森林学習、キャリア教育、野菜栽培、観桜期ボラ活動、高校調査など		
		長谷	中学生の地域おこし活動、荒廃地開墾活動、唐辛子栽培・ラー油など		
事業の課題及び方向性	【課題】総合的な学習の位置づけを常に明確にする必要があります。また、「体験学習」や「交流学习」を通して総合的に「生きる力」や「人間関係力」、「自己肯定感」を養う必要があります。				

	【方向性】意欲に関わる学力の伸長を大切に考え、地域の自然や文化・伝統など体験を通して行なわれる総合的な学習を推進します。また、信州型コミュニティ・スクール事業を軸に取り組み、地域協働の開かれた学校づくりをさらに推進します。	
自己評価	A	

事務事業	No.2	キャリア教育の推進	R2 年度決算額	4,747 千円
事業の目的	子どもたちが社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する力を育むために、学校、家庭、地域、産業界、行政が協働してキャリア教育の推進に取り組みます。			
事業内容	○伊那市キャリア教育推進委員会の運営 ○職場体験学習の実施 ○伊那市中学生キャリアフェスの実施 ○キャリア教育産学官交流会ほか郷土愛プロジェクト事業への参画			
達成状況	○市内中学生を対象に学校、事業所と連携を図りながら職場体験学習を実施しました。 ・実施生徒数 315 人 平均実施日数 3 日 ・受入れ事業所数 96 か所 (H29:184 か所、H30:177 か所、R1:161 か所) ※新型コロナウイルス感染症の影響により、2校で実施を取りやめ、代替授業を実施しました。 ○中学生が新たな出会いや発見を体感しながら、地域の良さを改めて実感し、未来を考える機会として、伊那市中学生キャリアフェスをオンラインで開催しました。 ・参加生徒数 市内全6中学校2年生 661 人 ・出展ブース数 53 ○上伊那の産学官組織が協働しながら、次世代育成や地域づくりを実践する郷土愛プロジェクトの事業に参画しました。 ・キャリア教育産学官交流会 参加者 245 人 (H29:255 人、H30:292 人、R1:296 人)			
事業の課題及び方向性	【課題】職場体験学習の実施に係る事務手続き等の流れは定着してきましたが、生徒・学校と受入れ事業所との目的、理念の共有をさらに図っていく必要があります。 【方向性】事前事後学習等を通じて生徒一人一人に目的意識を持たせるための支援を行うとともに、地域で子どもを育てるという伊那市キャリア教育憲章のビジョンを関係者間で共有する取組を推進します。また、キャリア教育の一貫性、継続性を担保するため、小学校、高校等との連携を図ります。			
自己評価	A			



キャリア教育
(伊那市中学生キャリアフェス2020
オンラインで実施)

事 務 事 業	No.3	幼保小中の連携	R2 年度決算額	1 千円
事業の目的	保育園・幼稚園と小学校双方が幼児期から学童初期における子どもの発達と活動（遊びと教育）についての理解を深め、育ちや学ぶ意欲がスムーズに引き継がれ、健やかな成長を支援できるよう幼児教育と小学校教育の双方の質の向上を図るとともに、中一ギャップと言われる中学校進学時の不登校の増加など、学校不適応への適切な対応を図ります。 子どもが抱える課題などについて早い時期から情報の共有を図り、早期に適切な支援を行い、不適応、不登校等への早期対応、未然防止を図ります。			
事業内容	○幼保小連絡会、小中連絡会の開催 ○学校行事等を通じた児童生徒の交流 ○保育士、小学校教職員の相互体験 ○幼保小・小中連携推進委員会開催 ○幼保小連携プログラム「伊那市版幼保小連携プログラム」の実践			
達成状況	○保育士・小学校教職員の相互1日体験を実施、子どもの実態を体験的に感得することで双方の意識変革を促す取組になっています。 ○「幼保小連携推進委員会」において作成した伊那市版「幼保小連携プログラム」に基づく、地域の特性を生かしたアプローチ・スタートカリキュラムの作成、実践により、保育園から学校へのスムーズな接続が図られました。 ○支援を要する子どもを対象に「成長ダイアリー」を作成し、幼・保・小・中・高の情報共有を図っています。			
事業の課題及び方向性	【課題】 小1プロブレム、中1ギャップと言われる進学時の学校不適応への対応が求められています。 【方向性】 児童生徒、教職員間の相互交流などを通して心的距離の縮小を図ります。 伊那市版「幼保小連携プログラム」について、カリキュラムの実践、検証、見直しを進めます。			
自己評価	B			

事 務 事 業	No.4	読書活動の推進	R2 年度決算額	47, 219 千円
事業の目的	心豊かな人間性と自ら学ぶ学習意欲を育むため、学校図書館の充実を図るとともに、読書活動を推進します。			
事業内容	○学校司書の配置 ○読み聞かせボランティアの活用及び充実 ○学校図書館システム活用			
達成状況	○「朝読書」などの全校一斉読書、地域のボランティア等による読み聞かせを全小中学校で行っています。 ○全校に配置した学校司書（17人うち2校勤務4人）が、読書活動や図書館活用の支援、読書環境の充実に力を発揮しています。 ○図書館システムを全小中学校に導入し、活用しました。 【参考】 図書館の本の1人当たり平均貸出冊数 小学校 120冊（H29:114冊、H30:105冊、R1:117冊） 中学校 32冊（H29: 29冊、H30: 23冊、R1: 31冊）			
事業の課題及び方向性	【課題】 読書習慣の定着、自主的、主体的学習活動の支援、情報の収集、選択、活用能力の育成が求められています。また、図書館システムの更新が必要となっています。 【方向性】 引き続き学校図書館の蔵書の充実を図るとともに、図書館を活かし子どもの読書活動や調べ学習を支える学校司書を配置します。 読み聞かせボランティアの活用を図り、読書活動を推進します。 市立図書館と連携し、図書館システムを更新します。			
自己評価	B			

事務事業	No.5	学校備品整備・情報教育	R2 年度決算額	291,054 千円
事業の目的	情報教育を含む教育環境の充実を図るため、教材備品及び情報機器の整備を推進します。			
事業内容	○一般教材・理科教材備品の整備 ○タブレット端末、校務用パソコン、電子黒板セット等の環境整備 ○「学校教育の情報化ビジョン」実現のための取組			
達成状況	○必要な教材備品及び情報機器を整備しました。 ○コロナ禍において対面でのICT研修の実施が難しい中、オンライン開催等工夫をしながら教員のスキルアップに努めました。 ○令和2年度は、タブレット3,604台、電子黒板セットを2台導入、併せてネットワーク高速化の整備をしました。 ○GIGAスクール構想により児童生徒1台/1人のタブレット整備が完了しました。 【参考】 タブレット端末の総数 児童生徒用 5,601台 教員用 455台 電子黒板及び周辺機器整備台数 274セット (21校) 小中学校の無線LAN環境の高速化率=100%			
事業の課題及び方向性	【課題】 GIGAスクール構想による整備により一人一台のタブレット整備がされました。児童生徒の学びを中心とした利活用の促進とこれまで以上の教員のスキルアップが必要である。併せて一層の支援体制強化が重要です。 【方向性】 学校からの要望に基づき、教材備品・理科備品を整備すること、情報教育においては、児童生徒の個別最適な学び・主体的な学び・創造性を育む学び実現のため、支える先生方のICT研修会や支援体制の充実をはかり、教員のICT活用指導力向上を目指します。また、情報セキュリティ意識の向上と正しい利用のための情報モラル教育を進めます。			
自己評価	A			

(2) きめ細やかな学びの支援

事務事業	No.6	学力向上	R2 年度決算額	4,304 千円
事業の目的	自ら学ぶ意欲や学習習慣の形成を図るため、学力検査の結果などを基に授業改善などに努め、児童・生徒一人一人の実態に応じた学習指導を行います。 また、小学校と中学校の放課後等に行われる自発的な学習活動を支援します。 中学生が長期休業中でも安心して過ごせる学びの場所を確保します。			
事業内容	○標準学力検査（NRT）の実施 ・小学4年生（545人）算数・小学5年生（576人）国語、算数、 ・中学2年生（607人）国語、数学、英語 ○学力検査結果の分析と授業改善 ○中学生の放課後学習支援事業の実施 ○小学生の学力向上支援（授業中、業間、放課後）事業の実施 ○読み書きにつまずきのある児童の早期発見・支援事業の実施 ○中学校の長期休業中に、学習支援を受けながら自主的に学びを深め、基礎的な学力の定着を図るとともに、長期休業中の規則正しい学習リズムと安心できる居場所を確保する			
達成状況	○伊那市が標準学力検査（NRT）を始めて17年が経過し、小中学校共に基礎・基本の学力の定着がみられます。各校においては、検査結果の分析を基に個別指導、授業改善に取り組むとともに、学力向上と関係が深い「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」など生活習慣の定着を進めました。 ○教育長、指導主事、学校長で構成する「学力向上検討委員会」を設置し、検査結果の検討、分析を行うとともに、「学力向上のための実践事例発表や講演会」を開催し、検査結果を基にした授業改善と有識者講師による講演から今後の進めるべき方向性を模索するとともに			

	に、授業改善リーフレットを市内小中学校の全教員に配布し授業改善を呼びかけました。 ○中学校の放課後学習支援員を募集、委嘱し、中学生の学力向上を支援しました。 受講生徒数 219 人 (H29: 561 人、H30: 402 人、R01: 346 人) 支援員数 67 人 (H29: 59 人、H30: 51 人、R01: 60 人) ○小学校の放課後等の学習支援員による学力向上支援事業を行いました。 受講児童数 341 人 (H29: 926 人、H30: 1130 人、R01: 1119 人) 支援員数 30 人 (H29: 58 人、H30: 59 人、R01: 53 人) ※コロナの全国一斉臨時休業による影響で、一部の学校で放課後等の学習の取組ができない学校もありました。 ○全小学校の 1 年生～3 年生に MIM(多層指導モデル)の導入をしており、読み書きについての研修を実施しました。 ○中学校の長期休業中(夏・春)に「中学生の自習室」として市内 4 ヶ所の公民館を会場に、学習支援員を配置し、午前中の時間、お昼の軽食付きで本格的に実施を始めました。 延べ参加生徒数(夏) 203 人 延べ参加生徒数(春) 106 人
事業の課題及び方向性	【課 題】令和 2 年度に市が実施した標準学力検査では、小学校 5 年生の国語が全国平均を上回る正答率で、中学校 2 年生の数学は全国平均に比してやや低い正答率です。その他の小学校 4 年生の算数、小学校 5 年生の算数、中学校 2 年生の国語、英語はおおむね全国標準の範囲内にあります。 中学校 2 年生の数学では、「数と式」領域は全国平均並みですが、「関数」領域が大きく下回っています。 【方向性】市校長教頭会の学力向上検討委員会において、各教科の課題と改善策を市校長会、教頭会、授業づくり研修会で提案するとともに、学力向上支援ボランティアの活用を引き続き継続します。
自己評価	A



中学生の自習室



放課後学力向上支援事業

事務事業	No.7	特別支援教育	R2 年度決算額	77,018 千円
事業の目的	知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、情緒障害等心身に障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行います。			
事業内容	○特別支援教育支援助員・講師の配置 ○伊那中央病院院内学級の設置、運営 ○「ことばの教室(伊那小学校)」、「まなびの教室(伊那北小学校・東春近小学校(サテライト教室))」及び「学びの教室(東部中学校)」の設置・運営			

	○特別支援教育就学奨励費の支給					
達成状況	○特別な教育的支援を必要とする児童生徒の増加に対応するため、特別支援教育支援介助員当を市費で配置しました。					
	【参考】特別支援学級在籍児童生徒数・クラス数・支援員数					
		小学校		中学校		支援員数
		児童数	クラス数	生徒数	クラス数	内()講師数
	平成29年度	225	44	112	20	37(1)
	平成30年度	259	48	120	21	41(1)
	令和元年度	249	45	125	22	46(1)
	令和2年度	252	47	130	23	43(1)
	特別支援教育就学奨励費の支給 248 人 (H29:208 人、H30:236 人、R1:238 人)					
	○副学籍制度による、特別支援学校に就学する児童生徒と居住する地域の小中学校の児童生徒の交流及び共同学習の拡充に努めました。(副学籍児童生徒 45 名)					
事業の課題及び方向性	【課題】特別支援学級に在籍している児童生徒数が増加するとともに、自・情障学級では、学年が上がっても在籍児童数が減少しない傾向にあります。また、通常学級において学習障害 (LD)、注意欠陥多動性障害 (ADHD)、広汎性発達障害等、学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加しており、支援体制の充実が求められています。					
	【方向性】関係機関との連携を図り、子どもの教育的ニーズに最も的確に応える支援を提供するとともに、ノーマライゼーションの観点からも、自・情障学級から通常学級への転籍に向けた支援のあり方を検討する必要があります。 また、児童生徒、保護者等が障害への理解を深めるとともに、特別支援学校に通う子どもたちが、友だちとの繋がりや地域での存在感を継続できるよう副学籍制度の充実に努めます。					
自己評価	B					

事 務 事 業	No.8	外国籍児童生徒の支援		R2 年度決算額	9,978 千円																				
事業の目的	通訳、相談、学習支援等の支援体制を整備し、外国籍児童生徒の学校生活への適応、学力の定着を図る。																								
事業内容	○日本語教室の設置、運営（伊那東小、伊那北小、東部中） ○外国語児童生徒支援相談員の設置（伊那北小、東部中） ・児童生徒の学習及び学校生活の支援、家庭への便りの作成、家庭との連絡、通訳等 ○発達障害等、特別な教育的支援を必要とする外国籍児童の支援介助、家庭と学校との連絡、通訳等に当たる支援員の配置（伊那東小）																								
達成状況	外国籍児童生徒に対する、通訳、相談、学習等の支援を継続して行いました。 【参考】外国籍児童生徒数 <table><tr><td></td><td>伊那東小学校</td><td>伊那北小学校</td><td>東部中学校</td></tr><tr><td>平成29年度</td><td>33</td><td>39</td><td>36</td></tr><tr><td>平成30年度</td><td>31</td><td>45</td><td>34</td></tr><tr><td>令和元年度</td><td>31</td><td>48</td><td>31</td></tr><tr><td>令和2年度</td><td>36</td><td>47</td><td>32</td></tr></table> その他 小学校5校18人、中学校3校7人						伊那東小学校	伊那北小学校	東部中学校	平成29年度	33	39	36	平成30年度	31	45	34	令和元年度	31	48	31	令和2年度	36	47	32
	伊那東小学校	伊那北小学校	東部中学校																						
平成29年度	33	39	36																						
平成30年度	31	45	34																						
令和元年度	31	48	31																						
令和2年度	36	47	32																						
事業の課題及び方向性	【課 題】障害があり特別な支援を必要とする外国籍児童への対応や、多様な言語への対応も必要となっています。 【方向性】日本語教室の設置、運営と外国語児童生徒支援相談員等の適切な配置を引き続き行います。																								
自己評価	B																								

(3)安心安全な給食と食育の推進

事 務 事 業	No.9	給食運営・給食施設整備	R2 年度決算額	623,017 千円
事業の目的	児童生徒が食事に関する正しい理解と望ましい食習慣を身につけるため、栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食育を推進します。			
事業内容	○給食運営 ○栄養士、給食技師の配置 ○伊那市学校給食食農体験事業「暮らしのなかの食」への取り組み			
達成状況	給食技師の臨時職員化、食材の共同購入により、経費の縮減を図るとともに、栄養士を各学校及び調理場に配置することにより、食育の推進を図り、地産地消の安全安心な美味しい給食を提供しました。(令和2年度県内産食材利用率 約61.5%) 【参考】給食提供数 1,087,622 食 (H29:1,294,995 食、H30:1,257,241 食、R1:1,229,424 食) 給食技師数 77 人 (H29:75 人、H30:77 人、R1:73 人) 給食1食あたりの経費 224 円 (H29:183 円、H30:187 円、R1:193 円) 伊那市学校給食施設整備計画に沿って給食施設の整備を行いました。 ・東春近小学校給食調理場の解体 41,857 千円 ・富県小学校給食調理場建設 301,411 千円 伊那市学校給食食農体験事業「暮らしのなかの食」への取り組みを市内全校で行いました。 ・活動事業費(食育に係る各学校への配当等) 2,206 千円			
事業の課題及び方向性	【課題】子どもに安全安心、そして美味しい給食を提供するとともに、子どもの食に対する理解を深める必要があります。 【方向性】各学校と連携を取りながら、本格的な農業体験に基づく作物の育成、食材の生産及び食に対する「いただきます」「もったいない」の感性を育む食農体験事業「暮らしのなかの食」の取り組みを小中学校21校で継続します。また、人的配置、食材調達等効率的な給食運営を図るとともに、計画的に給食施設の整備を行います。			
自己評価	B			



ヒマワリの種まき



サツマイモ掘り

(4) 学校施設の耐震化・長寿命化と適正配置

事 務 事 業	No.1 0	学校施設の耐震化・改修整備	R2 年度決算額	392,729 千円
事業の目的	○児童生徒の安全確保と地域の防災拠点の整備を図るため、小中学校施設の非構造部材耐震化とトイレの改修を行います。 ○施設の維持管理を行うとともに、教育環境の改善を図るため、校舎内外の大規模改修整備を行います。			
事業内容	○耐震化工事 平成27年度より、各校体育館の非構造部材（天井材・窓ガラス・照明器具等）の耐震化を進めています。 ○改修工事 耐震化工事と併せて屋根・外壁の改修を行うとともに、トイレの洋式化等を含めトイレの改修を進めています。			
達成状況	○非構造部材耐震化ほか工事の実施 (1) 高遠中学校体育館（非構造部材耐震化・屋根・LED 照明改修） (2) 長谷中学校体育館（非構造部材耐震化・屋根・LED 照明改修） ○トイレ改修工事の実施 (1) 長谷小学校トイレ改修工事 (2) 長谷中学校トイレ改修工事（非構造部材耐震化ほか工事と同時に実施） ○大規模改修工事等 (1) 伊那西小学校森の教室建設工事 (2) 小中学校ペレットストーブ設置（伊那東小10基、富県小8基、長谷中4基 計22基）			
事業の課題及び方向性	【課 題】市内小中学校施設は、昭和40年代後半から昭和50年代の児童生徒の急増期又はそれ以前に建築されたものが過半数を占め老朽化対策が課題となっており、対策には確実な補助金等の財源確保が必要です。 【方向性】令和2年度に「学校施設長寿命化計画（個別計画）」を策定しました。引き続き、国などの有利な財源を活用し、学校施設の非構造部材耐震化工事等を推進していきます。			
自己評価	A			



高遠中学校体育館（令和2年度非構造部材耐震化・屋根・LED 照明改修）

1－2：教育連携

地域の高等学校と連携を図り、社会変化に対応した教育内容の充実と魅力ある高等教育について働きかけるほか、引き続き過疎地域・私立高等学校の振興のため支援に取り組みます。また、大学や短期大学との連携・交流により、高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。

(1) 高等学校との連携

事務事業	No.1 1	高等学校振興	R2 年度決算額	3,000 千円															
事業の目的	過疎地域の高等学校の振興を図るため、高遠高等学校振興会の活動を支援します。																		
事業内容	高遠高等学校振興会活動の支援																		
達成状況	○高遠高等学校振興会へ負担金を支出し振興会事業を支援しました。 ○平成 23 年度から振興会で行う通学費補助事業の経費を市で負担しています。 ○平成 7 年にコース制導入後、文科省の学力向上実践研究校としての実践研究（平成 21 年度から 3 年間）、長野大学、日本福祉大学、東京藝術大学など高大連携の拡充を図るとともに、平成 24 年度、高遠高等学校の将来像検討委員会を設置し、教育内容の改善、充実に努めています。また、伊澤修二記念音楽祭ほか、地域や保育園、小中学校と連携した取組を進めています。 ○入学者数の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>平成 29 年度</th><th>平成 30 年度</th><th>令和元年度</th><th>令和 2 年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学者数</td><td>109</td><td>105</td><td>120</td><td>116</td></tr> <tr> <td>定 員</td><td>120</td><td>120</td><td>120</td><td>120</td></tr> </tbody> </table> ○バス通学費補助 143 人、1,600 千円 (H29:157 人、1,600 千円、H30:128 人、1,600 千円、R1:149 人、1,600 千円)					平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	入学者数	109	105	120	116	定 員	120	120	120	120
	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度															
入学者数	109	105	120	116															
定 員	120	120	120	120															
事業の課題及び方向性	【課 題】定員確保、高等学校再編後も存続可能な将来像構築が求められています。 【方向性】高遠高等学校は、コース制を導入する等、特色ある学校運営を行っています。地域の魅力ある学校として発展していくためにも、「高遠学園構想」に基づく特色ある教育の拡充、高遠中学校等との連携及び定員確保へ向けた遠距離通学者の利便性を高める支援が引き続き必要です。																		
自己評価	B																		

事務事業	No.1 2	私立高等学校振興	R2 年度決算額	985 千円
事業の目的	地域の私立高等学校の振興を図るため、私立高等学校の運営を支援します。			
事業内容	伊那西高等学校に対する支援 ・職員の待遇改善・福利厚生、保護者の負担軽減等の支援			
達成状況	同校は、市内の生徒を多数受け入れており、地域の高等学校教育に大きな役割を果たし、地域に根ざした高等学校として定着しています。 【参考】定額補助 1 校当たり 600,000 円 (H22 から 600,000 円) 生徒割補助 1 人当たり 2,600 円 (H22 から 2,600 円) 伊那市に住所を有する生徒数 148 人 (H29:192 人、H30:176 人、R1:149 人) 全校生徒数 411 人 (H29:507 人、H30:460 人、R1:435 人)			
事業の課題及び方向性	【課 題】昭和 63 年から普通コース、進学コースの 2 コース制を導入、地域中学校との連携を重視し、受験機会の複数化、特色ある教育の充実及び定員確保に引き続き努めていきます。 【方向性】地域の高等学校教育に果たす役割や学校運営を取り巻く厳しい状況を考慮し、学校運営費補助を継続して行います。			
自己評価	B			

(2)大学との連携

事務事業	No.1 3	信州大学・東京藝術大学との連携	R2 年度決算額	0 千円
事業の目的	高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。			
事業内容	信州大学との地域連携、交流の続く東京藝術大学との連携強化			
達成状況	○中学校での信州大学の教員による作物（唐辛子など）の栽培指導 ○信州大学生による中学校学力支援ボランティア登録 5 人（H29:10 人、H30:3 人、R1:7 人） ○信州大学農学部 of 教職免許取得学生の研修受入れ（※ コロナ感染対策により未実施） ○信州大学生のボランティアによる通学合宿・おいで塾への協力（※ コロナ感染対策により両事業未実施） ○東京藝術大学学生による吹奏楽及び合唱指導 ・市内中学校・高等学校の吹奏楽、合唱部員等を対象に、東京藝術大学学生を講師として行われる講習会（※ コロナ感染対策により未実施）			
事業の課題及び方向性	【課題】連携を通じ、専門性のある教育を受ける環境の創出とともに、信州大学卒業生の伊那市内企業への就職、市内での就農につながる取り組みが求められています。 【方向性】様々な機会を通じ、信州大学・東京藝術大学関係者との意見交換を行い、互恵関係を築く取り組みにチャレンジします。また、南信工科短期大学校との連携により、これからの長野県の産業を支えていく「ものづくりのスペシャリスト」の育成ができないか連携を模索していきます。			
自己評価	C			



東京藝術大学の学生から吹奏楽指導を受ける中学生（令和元年度）

1－3：心の教育

小中学校における心の問題や不登校、いじめ、虐待問題など様々な悩みを抱える児童生徒に対して、各種相談やきめ細かな支援を行うため、学校・家庭・地域・関係機関の連携強化を図るとともに、良好な環境の中で育てができるよう家族全体を支援します。

(1) 不登校対策の推進

事務事業	No.1 4	中間教室	R2 年度決算額	3,991 千円
事業の目的	不登校の児童生徒の居場所を確保し、学校復帰へ向け支援、相談及び学習指導を行います。			
事業内容	中間教室の設置 ・適応指導員による相談支援、体験活動、集団活動、学習指導等 【小学部】 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～15:30、会場：やまびこ学級 1 階 【中学部】 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～16:00、会場：やまびこ学級 2 階			
達成状況	○中間教室通室児童生徒のうち小学生の 66.7%（2 人）、中学生の 20.0%（2 人）が進学又は学校へ復帰しました。 【参考】 通室者数 小学部 3 人（H29: 8 人、H30: 8 人、R1: 4 人） 中学部 10 人（H29: 10 人、H30: 13 人、R1: 10 人） 通室割合（通室児童生徒数／不登校児童生徒数） 小学部 10.7%（H29: 57.1%、H30: 32.0%、R1: 13.8%） 中学部 16.7%（H29: 18.9%、H30: 23.2%、R1: 18.2%）			
事業の課題及び方向性	【課題】 長期化した不登校児童生徒への支援が課題であり、未然防止、早期発見、早期対応が求められています。 【方向性】 学校、子ども相談室、医療機関等との連携を図りながら、児童生徒、家庭への早期対応、支援に努めます。 不登校となっている児童生徒が、将来自立できるように（ひきこもりとならないために）訪問型の支援など、新たな取組を検討します。			
自己評価	B			

事務事業	No.1 5	不登校児童生徒支援ネットワーク	R2 年度決算額	26,232 千円
事業の目的	指導主事、学校、子ども相談室、中間教室、福祉、医療、民間支援団体等、関係機関が連携し不登校児童生徒の早期発見、早期対応、支援を行います。			
事業内容	○指導主事、学校、中間教室、子ども相談室等が連携した不登校児童生徒の支援 ○中学校への市費特別加配講師の配置 ○上伊那子どもサポートセンターの運営費支援			
達成状況	○不登校児童生徒は増加傾向あります。 ○不登校・不適應の傾向を持つ生徒の生活指導や教科指導を行うため、中学校への市費特別加配講師を配置しました。（5 中学校へ 10 人） 【参考】 不登校児童生徒数・割合（ ）は％			
		平成29年度	平成30年度	令和元年度
	小学校	14 人 (0.37)	25 人 (0.69)	29 人 (0.81)
	中学校	53 人 (2.60)	56 人 (2.80)	55 人 (2.77)
	合計	67 人 (1.16)	81 人 (1.43)	84 人 (1.51)
事業の課題及び方向性	【課題】 早期発見、早期対応等により、不登校を長期化させない対応が必要です。 【方向性】 スクールカウンセラー、子どもと親の相談員等の相談・支援体制の充実を図ると共に、関係機関と連携して対応します。又、児童生徒理解に基づく不登校児童生徒の早期発見・早期対応等、新たな不登校を出さないための取組を進めます。			
自己評価	B			

(2) 虐待防止対策の推進

事 務 事 業	No.1 6	子育て教育支援相談、家庭児童相談	R2 年度決算額	23,719 千円
事業の目的	親の養育力と家族機能を高め、子どもが自立へ向けての生きる力を培うため、家族、地域、関係機関が連携し、乳幼児期から思春期まで一貫した相談支援を行います。			
事業内容	○関係機関との連携及び支援（保健・医療・福祉・教育・警察・司法等） ○要保護児童及び生徒（虐待を受けている児童、非行、虞犯等）の保護 ○個別ケース支援会議による関係機関の役割分担と連携 ○教育相談・就学相談			
達成状況	○子ども相談室を中心に、関係機関と連携して多数の相談や案件に対応しました。 ○支援が必要な保護者またはその子どもの一時休息事業（レスパイト事業）を実施しました。 ○児童虐待へ対応を強化するため、関係機関（学校・保育園及び関係職員）の研修を実施しました。また、個別ケース支援会議を開催し通告後の子どもの安全を守るための支援を強化しました。 ○教育支援委員会を年間 15 回開催し、その児童生徒に合った適切な就学及びその後の一貫した教育支援を行った。 【参考】 相談・支援数 1,982 件（H29：1,748 件 H30：1,449 件 R1：1,715 件） 児童虐待通告件数 101 件 163 人 （H29：53 件 109 人 H30：77 件 162 人 R1：64 件 122 人） 個別ケース支援会議 258 回（H29：249 回 H30：252 回 R1：327 回） 教育支援委員会に諮った幼児児童生徒数 113 人 （H29：132 人 H30：122 人 R1：112 人）			
事業の課題及び方向性	【課題】 ○相談件数が増加するとともに、相談内容は多様化し、緊急性が増しています。また、児童虐待についても困難な事例が多く、幅広い見識や専門性の高い対応が求められています。 ○児童相談所の管轄区域が広範囲となっていることから、通告を要するケースが生じた場合、児相から現場への移動に相当の時間を要し、迅速な対応ができない場合もあります。 【方向性】 今後は問題が深刻化する前に対応するため、関係機関との連携体制の更なる充実と、早期支援等の防止施策や子どもの健やかな育ちを阻む種々の根本要因に対応する施策の検討が求められます。また、虐待通告を要するケースは年々増加傾向にあり、緊急を要する事案は児童生徒の生命に関わることであるので、上伊那地域へ児童相談所の設置を望みます。			
自己評価	B			

(3) いじめ防止対策の推進

事 務 事 業	No.1 7	子どもと親の相談員の配置	R2 年度決算額	12,206 千円
事業の目的	児童生徒やその保護者が抱える不安や、悩みの相談に当たる相談員を小中学校に配置し、児童生徒が安心して充実した学校生活を送ることができるよう支援します。必要に応じて子ども相談室、中間教室、スクールカウンセラー等と連携し、不登校、不適応傾向の児童生徒とその保護者の支援を行います。			
事業内容	○ 児童生徒の話し相手・悩み相談 ○ 不登校傾向の児童生徒の早期発見・早期対応（家庭訪問含む） ○ 不登校児童生徒及び不登校児童生徒をかかえる家庭への対応等 ○ 市費による子どもと親の相談員の配置 相談員 11 人を 12 校へ配置（2 校兼務 1 人）			

1－4：青少年健全育成・家庭教育

青少年の健全育成に向けて、安心安全を踏まえた学童クラブの施設整備に努め共働き世帯を支援するとともに、学校、地域と連携し、青少年を育てる環境づくりを進めます。

(1) 子どもの居場所と安心安全の確保

事務事業	No.1 9	少年補導委員会・少年補導センター	R2 年度決算額	605 千円
事業の目的	青少年の健全育成と非行防止を図るため、関係団体と連携を図りながら、街頭補導などを実施します。			
事業内容	少年補導センター及び補導委員の配置 ・少年補導センターの運営 ・補導委員は、55 人を 11 班に編成し、毎週土曜日と第 3 日曜日に街頭補導を実施するとともに、学校の長期休暇中は特別街頭補導を実施（補導日数 65 日） ・補導の手引きの作成			
達成状況	街頭補導による指導件数は減少傾向にあり、補導活動が非行防止の一助となっています。この指導件数の減少を踏まえ、指導方針について検討を行いました。 コロナ禍の中、感染防止対応を行い計画どおり街頭補導及び特別街頭補導を行いました。 【参考】 補導活動延べ人員 213 人（H30:276 人、R1:261 人） 声かけ件数 38 件（H30:196 件、R1:55 件）			
事業の課題及び方向性	【課題】 インターネットの普及により、子どもを取り巻く環境が変化しています。 【方向性】 街なかでの子どもの減少やネットの中での行動に注視しながら、新たな活動内容について検討していきます。			
自己評価	B			

事務事業	No.2 0	学童クラブ	R2 年度決算額	75,737 千円
事業の目的	下校後、保護者が就労などにより不在のため、適切な保護が受けられない児童の保護及び健全育成を図ります。			
事業内容	学童クラブの設置 伊那小、伊那東小、伊那北小、伊那西小、富県小、新山小、美簗小、手良小、東春近小、西箕輪小、西春近北小、西春近南小、高遠小、高遠北小、長谷小の全 15 小学校に開所			
達成状況	入所者が多い伊那小・伊那東小・伊那北小は 3 クラブ、美簗小・東春近小・西箕輪小学童クラブは 2 クラブ体制で対応しています。 ○新型コロナウイルス感染症による小学校休校措置に伴い、学校と連携して臨時学童クラブを開所しました。 臨時開所 4 月 10 日から 5 月 22 日まで 27 日 延べ利用者 9,213 人 ○コロナ対策 エアコン設備、備品購入など 4,451 千円 ○施設整備 西春近北小学童クラブ トイレ洋式化工事 1,078 千円 西箕輪小学童クラブほか営繕工事 1,021 千円 【参考】 登録者数 650 人（H29:621 人、H30:631 人、R1:675 人） 登録者数／児童数 18.7%（H30:17.3%、R1:18.9%）			
事業の課題及び方向性	【課題】 保護者の共働き増加に伴い、利用人数が増加しています。 【方向性】 施設の老朽化・狭隘（きょうあい）施設の整備、支援員の確保などについて、学校などと連携を図りながら対応を検討していきます。			
自己評価	A			



学童クラブでの様子

(2) 地域・関係機関との連携による家庭教育の充実

事務事業	No.2 1	青少年育成対策	R2 年度決算額	1,622 千円
事業の目的	各地区子ども会・育成会が行う事業への支援を行いつつ、青少年の健全育成事業を推進します。			
事業内容	○地区における青少年の健全育成及び家庭教育推進活動に対する補助 ○子どもの安全、有害環境のチェック活動の実施 ○よりよい教育環境推進協議会の運営 ○わんぱく広場の開催 ○情報紙「えがお」の発行			
達成状況	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、各地区では行事中止など事業縮小になりましたが、委託費での支援を行いました。 コロナウイルス感染拡大防止のため、わんぱく広場を中止しました。 【参考】 例年行われている各地区育成会実施事業 有害環境チェック活動（7, 2月）、「信州あいさつ運動」への取組、魚つかみ大会、飯盒炊飯・キャンプ、どんど焼き、子ども神輿、天神様、まんど作り、しめ縄作り、子ども球技大会、夏祭り・花火大会、その他に子ども映画会、クリスマス会、資源回収、朝の清掃等			
事業の課題及び方向性	【課題】 地区によっては、過疎化、高齢化による組織的な問題が生じています。 【方向性】 子ども会・育成会は、地区の青少年健全育成の中心として大きな役割を担っており、引き続き支援を行っていきます。			
自己評価	C			

事務事業	No.2 2	成人式	R2 年度決算額	690 千円
事業の目的	新成人を祝い、成人としての意識の高揚を図るため、式典を開催します。			
事業内容	成人式を公民館単位の10地区で実施 伊那地区（対象：21歳に到達する者 開催 8月14、15日） 高遠・長谷地区（対象：20歳に達する者 開催 1月1、2日）			
達成状況	令和2年度伊那地区成人式は、新型コロナウイルス感染症の影響により8月開催を令和3年1月10日に延期しましたが、再び感染拡大により令和3年8月14、15日に延期しました。令和2年度高遠・長谷地区成人式も同様に令和3年8月14、15日に延期しました。（結果的に令和2年度成人式は中止）			
事業の課題及び方向性	【課題】 開催方法、時期に併せて、民法改正に伴い、対象年齢を見直す必要があります。 【方向性】 伊那市成人式のあり方について、対象年齢、開催方法、時期について検討していきます。			
自己評価	C			



伊那市成人式（竜西地区）



令和元年度記念品（印鑑ケース）

第2節 生涯にわたる学びの支援とスポーツの振興

信州大学や東京藝術大学をはじめとする教育機関等との連携を図りながら、市民一人ひとりが目的に応じて、「いつでも、どこでも、いつまでも」学びやスポーツに親しむことができるよう、学習機会の充実と環境づくりを進めます。また、国指定史跡である高遠城跡などの有形文化財をはじめ、無形民俗文化財など地域の文化財や伝統芸能の保存・継承・活用を推進するとともに、歴史・文化・芸術の振興を図ります。

2-1：生涯学習

生涯学習の総合的な指針「伊那市生涯学習基本構想」に基づく計画的な事業実施により、自然や文化、歴史、産業等地域の特徴を生かした生涯学習を推進し、年齢や職業を超えたあらゆる人々が興味を持って学ぶことのできる環境づくりに努めます。また、地域文化や生涯学習の拠点として、公民館の適正な維持管理に努め、施設の長寿命化を図るための施設改修等を行うほか、地域の「知の拠点・情報拠点」としての図書館の充実・活用を図るとともに、上伊那地域の図書館との連携により、利用者の利便性向上に努めます。

(1)生涯学習・社会教育の推進

事 務 事 業	No.2 3	市民大学・市民大学大学院	R2 年度決算額	2,330 千円
事業の目的	生涯学習における市民の機運を醸成し、学習推進のための機会を創出します。			
事業内容	芸術文化、歴史、自然科学、健康、音楽、人権などに関する講座の開催			
達成状況	コロナ禍の下、感染防止対策を行いつつ、内容などを考慮しながら講座を開催しました。 【市民大学】開設23年目を迎え、様々な分野での学習探究の場として幅広く、充実した講座を開催しました。			
	令和2年度 講座内容			
	「脳トレ・笑いトレ・脂肪トレ」(講師：竹中雅幸)			
	「高遠石工の魅力」(講師：熊谷友幸)			
	「成年後見人制度と遺言の話」(講師：熊谷 健)			
	「くちぶえとウクレレの弾き吹きコンサート」(演奏者：分山貴美子)			
	「80歳の挑戦～日本縦断3500キロの旅～」(講師：石川 文洋)			
	「中村不折を育てた伊那の教育的風土」(講師：笠原 千俊 副学長)			
	「市政よもやま話」(講師：白鳥 孝 学長)			
	「高倉健さんのご先祖様の旅」(講師：堀井 正子)			
	「心豊かに生きる～道元禅師の教えから～」(講師：角田 泰隆)			
	「映画(いのちありて・おじいちゃん)の上映会とトーク」(講師：後藤 俊夫)			
	「伊那ビデオクラブの作品集から」(講師：赤羽 仁)ほか4講座 計15講座			
	【参考】第22期 後期 学生数43人 4講座(7講座中止) 第23期 前期 学生数33人 11講座(2講座中止)			
	【市民大学大学院】市民大学の修了者を対象に、さらに学習を深めていただく専門的な学びの場として2つのコースを用意し、第6期後期を開講しました。			
事業の課題及び方向性	令和2年度 研究内容			
	歴史コース : 高遠藩藤澤郷の道 高遠の寺院を訪ねて ほか			
	自然科学コース : 三峰川河川敷における環境の違いと植物 堆肥による生育の違い ほか			
自己評価	【課題】充実した学習機会とすべく、受講者の学習要求を的確にとらえた魅力ある講座運営を行う必要があります。			
	【方向性】受講生による自主運営を基本に、魅力ある講座等を企画運営します。また、学習の成果が地域での活動に活かせるように促します。			
自己評価	B			

事務事業	No.2 4	桜大学	R2 年度決算額	115 千円
事業の目的	生活にうるおいと生きがいを与え人生を心豊かに生きるため、生涯学習の場を提供します。			
事業内容	講座の開催（4月29日～1月30日 会場：やますそ）			
達成状況	公民館活動のひとつとして実施され、42回目を迎えた伝統ある住民の学習の場です。			
	令和2年度講座内容（講師）			
	「戦国大名武田氏と伊那・高遠（武田氏研究会副会長 平山 優 氏）※ 来年度に延期			
	「頻発する水害・土砂災害に備える」～命を守るために～（元東京管区気象台長 鉢嶺 猛 氏）※ 中止			
	「高遠石工の魅力」～伊那谷、高遠の記憶をたどる小さな旅～（一般社団法人高遠石工研究センター 熊谷 友幸 氏）			
事業の課題及び方向性	【参考】受講者数 115 人（H29:710 人 H30:542 人 R1:370 人）			
	※新型コロナウイルス感染症対策のため、第1・2・4講座は中止（第3講座（11/28）のみ実施）			
自己評価	【課題】講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。			
	【方向性】高遠町地域における生涯学習の場として定着している中で、市民大学との共催講座なども実施し、伊那、長谷地域からの参加者も増えています。地域に縁がある方、地域について研究されている方などを講師に招き、地域の特性を生かした運営を行います。			
自己評価	C			

事務事業	No.2 5	長谷生涯学習講演会	R2 年度決算額	182 千円
事業の目的	地域住民の生活及び文化、教養の向上を図るため、生涯学習の場を提供します。			
事業内容	講演会の開催（11月7日 会場：長谷小学校 体育館） ・公民館・小中学校・小中学校PTA共催の、著名な講師を招いた講演会の開催。			
達成状況	コロナウイルス感染対策を徹底しつつ開催しました。			
	講演 ぼくは13歳 職業、兵士（認定NPO法人テラ・ルネッサンス創設者／鬼丸昌也 氏） 子ども兵の現状や元子ども兵の社会復帰支援、東日本大震災での被災地支援などについてお話いただく中で「自分にできることは何か」を考えてほしいと繰り返し訴えられ、聴講者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。			
事業の課題及び方向性	【参考】聴講者数 87 人			
	【課題】貴重な機会であり、長谷地区をはじめ、より多くの市民に聴講いただけるよう周知していくことが必要です。			
自己評価	【方向性】過疎化や高齢化の進む地域においても住民が質の高い文化に触れる貴重な機会として、今後も工夫しながら進めます。			
	A			

長谷生涯学習講演会の様子



講師の鬼丸 昌也さん



事 務 事 業	No.2 6	社会人権同和教育	R2 年度決算額	2,398 千円
事業の目的	基本的人権を尊重し、人権問題に対する理解を促進するため、学習する機会を提供します。			
事 業 内 容	○同和問題や性別問題などの人権問題について、学習する機会を創設します。 ・人権問題についての講演会、巡回講座、学習講座の開催 ・人権同和教育指導案集増頁作成			
達 成 状 況	コロナ禍の下、感染防止対策を行いながら講座を開催しました。 公民館等と連携して開催している講座・学級が定着し、幅広い世代で人権問題に対する理解が図られています。性的少数者への理解として、LGBT など講話に取り入れました。 【参考】 講演会 4回・349 人 (H30: 6 回・931 人、R1 : 5 回・615 人) 公民館人権講座 9 回・225 人 (H30: 10 回・286 人、R1 : 11 回・321 人)			
事業の課題及び方向性	【課 題】 社会の急激な変化により、インターネット上での誹謗中傷など新たな問題が生じています。 【方向性】 新たな問題を含め、全ての差別を防止すべく、人権を学ぶ機会や情報の提供など啓発活動を進めます。			
自 己 評 価	B			

事 務 事 業	No.2 7	学校人権同和教育	R2 年度決算額	268 千円
事業の目的	人権教育はすべての教育の基本という理念に立ち、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動などの特質に応じて、教育活動全体を通して計画的に推進し、人権感覚を培い、人権課題を自ら解決する意欲と実践力を持つ子どもたちを育てます。			
事業内容	○伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催（委員長・副委員長・委員各学校1名） ○人権教育講演会等の実施			
達成状況	○全ての小中学校において、それぞれの地域性、課題等の実態に沿った人権同和教育計画を立て、全教育活動を通じて実践しました。 ○伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催 4回（うち1回は書面開催） 学社連携による推進会議（2回）、職員研修会、人権同和教育研究授業参観・授業研究会開催 ○平成28年度に作成した「伊那市人権同和教育学習指導案集」の修正を行うとともに、性的少数者の人権に関する取組について増頁を行い、小中学校における人権同和教育に活用しました。 ○人権同和教育研修会を小学校4校、中学校3校で実施しました。			
事業の課題及び方向性	【課 題】経済状況の悪化、いじめ、児童虐待等子どもたちを取り巻く環境は深刻です。また、子どもたちのコミュニケーション力、自尊感情の低下等が懸念されています。 【方向性】教職員が豊かな人権感覚を持ち、人権尊重の理念に基づいた人権教育を実践する力量を高めるよう教職員研修の充実に努めるとともに、子どもたちの実体験の機会を増やす等の取組を通じ、豊かな人間性の育成に努めます。			
自己評価	B			

(2) 公民館活動の推進

事 務 事 業	No.2 8	集会施設整備事業補助	R2 年度決算額	3,432 千円
事業の目的	地域住民の福祉の向上、コミュニティの推進、災害時の拠点の確保などに資するため、集会施設等を整備する費用の一部を補助します。			
事業内容	伊那市集会施設整備事業補助金交付要綱に基づき、集会施設の新築・増築・改築及び改修工事の補助金を交付します。			
	・対象施設及び交付基準			
	施設区分	事業区分	補助要件等	
	公民館の分館又は区が管理運営する集会施設	新築	補助率	工事費の25%以内
			補助限度額	最高750万円まで
			最低事業費	100万円以上
		増築・改築・改修	補助率	工事費の25%以内
			補助限度額	最高120万円まで
			最低事業費	50万円以上
		水洗化・耐震補強	補助率	工事費の30%以内
			補助限度額	最高150万円まで
			最低事業費	50万円以上
		外構整備・舗装	補助率	工事費の25%以内
			補助限度額	最高120万円まで
			最低事業費	50万円以上
	町内会・常会・組等が管理運営する集会施設	新築・増築	対象外	
		改築・改修	補助率	工事費の25%以内
			補助限度額	最高50万円まで
			最低事業費	25万円以上
		水洗化・耐震補強	補助率	工事費の30%以内
			補助限度額	最高60万円まで
			最低事業費	25万円以上
		外構整備・舗装	補助率	工事費の25%以内
			補助限度額	最高50万円まで
			最低事業費	25万円以上
達成状況	○対象工事の経費の一部を補助しました。 【参考】補助施設数 8件 3,432千円 (R1: 11件 3,011千円)			
事業の課題及び方向性	【課 題】地元要望に応じた計画的な補助を行う必要があります。 【方向性】集会施設等は、地域住民の福祉の向上、コミュニティ活動の推進、災害時の拠点の確保などに資する事業ものであるため、予算の範囲内での計画的補助について継続していきます。			
自己評価	B			

事務事業	No.29	公民館建設	R2 年度決算額	22,896 千円
事業の目的	地域の生涯学習や地域コミュニティの形成など、地域づくりを推進するための拠点整備として、老朽化した公民館について計画的に改築や改修を行います。			
事業内容	○計画に基づき、施設の改築や改修を行います。			
達成状況	○西春近公民館建設の実施設計について完了し、令和3年度当初予算に建設工事に係る必要経費を計上しました。 ○建築に必要な用地買収を行いました。			
事業の課題及び方向性	【課題】地元や関係団体との調整 【方向性】合併特例債を財源とし、計画的に整備を進めます。			
自己評価	A			

事務事業	No.30	公民館共同事業	R2 年度決算額	6,542 千円
事業の目的	青少年の健全育成と家庭教育の充実を全市統一的に図るため、9公民館が共同して事業を実施します。 地域の公民館分館活動を支援するとともに、公民館活動への理解を深めてもらうための広報誌を発行します。			
事業内容	○キッズ王国やふるさと講座の開催 ○分館活動委託事業の実施 ○「公民館報いな」の発行			
達成状況	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、各行事について、分館を含め、中止、延期、縮小になりました。 ・「ふるさと講座」（手良公民館 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止） ・「キッズ王国」（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止） ・84 分館に活動委託 ・館報毎月発行第 499 号～第 510 号			
事業の課題及び方向性	【課題】市民ニーズが高い事業に対し、地域や関係団体と連携し、充実を図る必要があります。 【方向性】「子どもが集う公民館」を重点テーマに、参加規模が大きな事業について、支援ボランティアの確保を進めながら公民館全体で共同事業として取り組みます。			
自己評価	C			

事務事業	No.31	公民館活動事業	R2 年度決算額	2,977 千円
事業の目的	生涯学習を通じた生きがいづくりや地域づくりを推進するための機会を創出します。			
事業内容	市内9公民館において、高齢者、女性、成人、青少年、家庭など様々な分野において教室・講座・イベントなどを開催すると共に、広く学習の場を提供します。			
達成状況	各地域の特色や住民要望に応えたさまざまな講座を開催しました。 コロナ禍の下、一部中止となった講座もありましたが、飲食を伴う講座については調理したものを持ち帰る対応に変更したり、静かに活動できる物作り等の講座に変更したりするなど工夫して行いました。 夏休み中の小学生を対象として、居場所づくり、学習機会の充実、生活習慣の維持などを目的に、各館において『おいで塾』を行いました。（3～5 日間 359 人参加）			

	【参考】講座・教室・イベントなど公民館利用者数 97,469 人 (H30:171,348 人、R1:161,611 人)	
	公民館	令和2年度活動内容（特徴的なもの）
	伊 那	らっこルーム、女性教室、伊那おやじの会、高齢者教室、市民ガーデニング講座、楽しい切り絵教室、など
	富 県	富県麻雀教室、トムキャロット、のどか学級、いきもの探検隊、俳句教室、うたの教室、など
	美 篤	親子青空教室、「芽と実」読み聞かせ、史跡探訪の会、童謡・唱歌の集い、健康マージャン教室など
	手 良	わいわいくらぶ、茶道教室、おいさんずくらぶ、四ツ葉の集い、手良の歴史講座、など
	東春近	楽生学級、女性教室、くれよんクラブ、チャレンジおっこ塾、童謡唱歌を楽しむ会、など
	西箕輪	わんぱく親子塾、脳イキイキ出前講座、冬の自然観察会、料理教室、山野草講座など
	西春近	出前講座、父居屋の会、かるがも学級、女論の会、万年青の会、文化祭など
	高 遠	美術館・歴史博物館特別展講座、最も美しい村・ジオパーク講座、さくらんぼきつず、桜大学講座、そば打ち講座、各種球技大会など
	長 谷	入野谷講座、ソフトテニス教室、くじらくらぶ、女性教室、うたのラウンジなど
事業の課題及び方向性	【課 題】 生活に結びついた公民館活動を通して、生涯学習と地域づくりを進める必要があります。 【方向性】 (1)まなぶ…いつでも、どこでも、だれもが学ぶことができ、学び合い、育ち合い、高めあう機会と場を提供します。 (2)つなぐ…出会い、ふれあい、交わりを大切に、仲間づくりと地域の交流を進めます。 (3)つくる…地域課題に取り組み、生き生きとした地域づくりと地域文化の伝承と創造を目指します。	
自己評価	B	



キッズ王国の様子（令和元年度開催風景）

(3)図書館の充実

事務事業	No.3 2	蔵書管理	R2 年度決算額	9,187 千円															
事業の目的	市民が自主的な学習を行う「知の拠点」となるため、図書や情報資料の提供の充実を図ります。																		
事業内容	○伊那図書館、高遠町図書館の運営管理 ○図書館資料の管理（選書、発注、装備・登録・修理、除籍） ○図書館システムの維持・管理 ○学習の場の提供																		
達成状況	優良図書の整備に努めるとともに、市民の知の拠点として定着しています。 ○令和2年度 ・システムデータの更新、保守、管理を行い、適正な運用に努めました。 ・諸資料の購入・整備、利用者への貸出・閲覧を行いました。 ・資料を有効活用するため、テーマ展示を定期的に行いました。 【参考】 蔵書数は図書のみ、() 内 R1 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th><th>蔵書冊数</th><th>貸出冊数</th><th>登録者数（個人）</th><th>利用者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那図書館</td><td>222,882 (222,614)</td><td>274,452 (307,422)</td><td>57,019 (56,333)</td><td>54,730 (70,566)</td></tr> <tr> <td>高遠町図書館</td><td>93,699 (95,401)</td><td>35,138 (42,207)</td><td>6,820 (6,762)</td><td>7,340 (8,913)</td></tr> </tbody> </table>				名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数	伊那図書館	222,882 (222,614)	274,452 (307,422)	57,019 (56,333)	54,730 (70,566)	高遠町図書館	93,699 (95,401)	35,138 (42,207)	6,820 (6,762)	7,340 (8,913)
名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数															
伊那図書館	222,882 (222,614)	274,452 (307,422)	57,019 (56,333)	54,730 (70,566)															
高遠町図書館	93,699 (95,401)	35,138 (42,207)	6,820 (6,762)	7,340 (8,913)															
事業の課題及び方向性	【課 題】 多様化する市民の知的ニーズに応えるとともに、図書や図書館を取り巻く社会状況の変化に対応していく必要があります。 【方向性】 調査・研究・資料の収集整理をし、情報提供を積極的行います。また、引き続きイベントなどを通して、親しみやすい図書館になるよう努めます。																		
自己評価	B																		

事務事業	No.3 3	図書館イベント	R2 年度決算額	522 千円
事業の目的	幅広い世代が「実感・体感」を伴った知の獲得と創造する営みの楽しさを得るため、各種イベントを開催するとともに、ボランティアなどの人材育成を推進します。			
事業内容	○おはなしのひろばの開催（職員、ボランティアによる読み聞かせ） ○ブックスタートの実施（乳児へ絵本のプレゼント） ○各種講座 児童対象：おはなしのひろば、おりがみ教室、工作教室など 一般対象：絵本講座など ○利用者団体への支援			
達成状況	コロナ対策として、密を避けるために定員を設け、事前申込み制にするなどの対応を図りながら開催しました。各種イベントや講座の開催を通じて、市民に親しみやすい図書館が定着しています。 【参考】 ブックスタート 406 冊 (H30:472 冊、R1:456 冊) イベント 89 回 1,762 人 (H30:234 回 6,148 人 R1:222 回 6,084 人) 広域情報コーナー利用 12 団体 (H30:21 団体、R1:17 団体)			
事業の課題及び方向性	【課 題】 市民に身近な図書館となるために、市民との協働による図書館運営を図る必要があります、そのきっかけを作る講座などウィズコロナ、アフターコロナを見据えて企画する必要があります。 【方向性】 市民と協働しながら、イベントや講座など魅力ある図書館運営を進めます。			
自己評価	B			

事 務 事 業	No.3 4	図書館分館	R2 年度決算額	3,180 千円																																								
事業の目的	地区住民の図書館利用の利便を図るため、地区公民館に図書室を設置し、図書や情報資料の提供の充実を図ります。																																											
事業内容	○図書館分館（公民館図書室）の運営と管理 ○公民館の改築にあわせた図書館分館の設置 ○学習の場の提供																																											
達成状況	図書館分館の増加とともに利用者も増えていましたが、コロナウイルスの影響が大きく、利用者数は減少しました。 コロナ対策として、大人数での来館を控えていただきました。さらに、学習スペース、閲覧する机を撤去し、短時間の利用を呼びかけました。 ○各公民館図書館の図書資料の整備を行いました。2,099 冊 【参考】蔵書数は図書のみ、() 内 R1 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th><th>蔵書冊数</th><th>貸出冊数</th><th>登録者数 (個人)</th><th>利用者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東春近</td><td>18,995 (18,726)</td><td>15,885 (18,622)</td><td>1,465 (1,454)</td><td>2,532 (3,147)</td></tr> <tr> <td>富 県</td><td>14,997 (14,843)</td><td>16,041 (20,275)</td><td>818 (816)</td><td>2,372 (3,515)</td></tr> <tr> <td>手 良</td><td>13,132 (12,201)</td><td>16,135 (18,560)</td><td>506 (493)</td><td>3,324 (3,706)</td></tr> <tr> <td>長 谷</td><td>12,138 (11,989)</td><td>4,317 (4,745)</td><td>215 (207)</td><td>964 (949)</td></tr> <tr> <td>美 簫</td><td>17,129 (16,891)</td><td>13,855 (14,920)</td><td>922 (905)</td><td>2,687 (3,730)</td></tr> <tr> <td>西箕輪</td><td>7,444 (7,265)</td><td>12,585 (15,208)</td><td>377 (369)</td><td>2,382 (3,684)</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>83,835 (81,915)</td><td>78,818 (92,330)</td><td>4,303 (4,244)</td><td>14,261 (18,731)</td></tr> </tbody> </table> ・施設利用率（各地区利用者数／分館設置地区の人口）56.2%（73.1%）				名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数 (個人)	利用者数	東春近	18,995 (18,726)	15,885 (18,622)	1,465 (1,454)	2,532 (3,147)	富 県	14,997 (14,843)	16,041 (20,275)	818 (816)	2,372 (3,515)	手 良	13,132 (12,201)	16,135 (18,560)	506 (493)	3,324 (3,706)	長 谷	12,138 (11,989)	4,317 (4,745)	215 (207)	964 (949)	美 簫	17,129 (16,891)	13,855 (14,920)	922 (905)	2,687 (3,730)	西箕輪	7,444 (7,265)	12,585 (15,208)	377 (369)	2,382 (3,684)	合 計	83,835 (81,915)	78,818 (92,330)	4,303 (4,244)	14,261 (18,731)
名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数 (個人)	利用者数																																								
東春近	18,995 (18,726)	15,885 (18,622)	1,465 (1,454)	2,532 (3,147)																																								
富 県	14,997 (14,843)	16,041 (20,275)	818 (816)	2,372 (3,515)																																								
手 良	13,132 (12,201)	16,135 (18,560)	506 (493)	3,324 (3,706)																																								
長 谷	12,138 (11,989)	4,317 (4,745)	215 (207)	964 (949)																																								
美 簫	17,129 (16,891)	13,855 (14,920)	922 (905)	2,687 (3,730)																																								
西箕輪	7,444 (7,265)	12,585 (15,208)	377 (369)	2,382 (3,684)																																								
合 計	83,835 (81,915)	78,818 (92,330)	4,303 (4,244)	14,261 (18,731)																																								
事業の課題及び方向性	【課 題】より身近な地域の図書館として、子どもから高齢者までの利用者の利便を図る必要があります。 【方向性】西春近公民館の建て替えて図書室が設置されるため地域に合わせた選書と、より身近に感じていただける図書館サービスについて検討を進めます。																																											
自己評価	B																																											



図書館イベントの様子



2-2：文化・芸術

多様な文化芸術や伝統芸能などの保存団体の育成を推進するとともに、意識の高揚などを通じて、市民の文化芸術活動の振興を図るとともに、新しい文化の創造を推進します。

歴史資料や美術工芸品、建造物などの文化財は、市民等の学習・研究及び地域の活性化に生かすため、適切な保存管理と有効活用を図ります。また、多様な学習ニーズに対応するため、地域の学習拠点となる各施設の充実に努めます。

(1) 文化芸術の振興と地域文化の育成

事 務 事 業	No.3 5	進徳館の日	R2 年度決算額	0 千円
事業の目的	進徳館教育から先人の遺訓を学び、その精神を現代に活かして歴史と文化のまち伊那市へ一層の発展を図ります。			
事業内容	○式典、基調講演、学習発表など（5月23日 会場：進徳館、高遠閣） ○剣道大会（5月23日 会場：高遠町文化体育館）			
達成状況	新型コロナウイルス感染症対策のため、全ての事業を中止としました。 実学重視の藩校「進徳館」の学びの心に触れ、藩校教育の伝統や精神を継承し、地域の生涯学習の振興を図る事業として地域に定着しています。また、旧高遠藩主をはじめ、藩関係者との交流の機会ともなっています。 【参考】 ○令和2年度 第26回進徳館の日 ・五聖像に礼拝、式典、基調講話、実践報告、記念講演 【参考】例年参加人数（H27:150人 H28:200人 H29:250人 H30:250人 R1:100人） ○令和2年度 第22回進徳館の日記念少年剣道大会 【参考】例年参加数（H28:39チーム H29:38チーム H30:42チーム R1:27チーム）			
事業の課題及び方向性	【課題】藩校「進徳館」の藩校教育の伝統や精神を継承し、その精神を現代に生かした事業展開を行う必要があります。 【方向性】進徳館教育の精神や優れた点を学び、現代社会に対応する方策を創造するとともに、広くPRすることによりこの事業の活用と充実に努めます。			
自己評価	C			

(2) 文化財の保存・継承・活用

事 務 事 業	No.3 6	史跡高遠城跡	R2 年度決算額	217 千円
事業の目的	伊那市の歴史財産である城跡の価値を損なうことなく次世代へ受け継ぎ、だれもが地域の歴史や文化を学ぶことができる環境づくりを進めるため、史跡の保存整備を行います。			
事業内容	○整備計画の進行、管理及び策定計画に基づいた工事等の実施 ○公有地化			
達成状況	○伊那市高遠城跡整備委員会の開催（1回） ・第3次史跡高遠城跡整備計画を策定しました。			
事業の課題及び方向性	【課題】整備実施計画（H17～）に基づき、残存遺構などの調査を進める必要があります。 【方向性】第3次整備実施計画に基づき事業を実施していきます。			
自己評価	B			



池上秀畝 画「旧高遠城之真景」

事 務 事 業	No.3 7	民俗資料館	R2 年度決算額	4,759 千円
事業の目的	民俗資料を継承するため、資料を収集・保管・整理・展示するとともに、体験できる施設として「高遠なつかし館」を、歴史的建造物の「旧馬島家」、「旧池上家」を企画運営します。			
事 業 内 容	○高遠なつかし館、旧馬島家、旧池上家の企画運営			
	施 設 名	内 容 等		
	高遠なつかし館	住民から集めた昔懐かしい農具や生活用品などを展示しています。機織りや縄ない、蓄音機、足踏みオルガンなどの体験ができます。高遠藩医を勤めた馬島家に関する資料も展示してあります。		
	旧馬島家（県宝）	江戸時代に高遠藩の眼科医を勤めた馬島家の住宅です。本棟造りの建物で、後世の改造が少なく、建造当初（天保7年（1836）頃）の形式を残しており、高遠藩当時の規模の大きな住宅の間取りを良く示しています。馬島家に関する資料も展示してあります。		
	旧池上家（市指定文化財）	豪壮な歴史の重さを感じる建物で、間口5間、奥行9間の町屋造り板葺きの住宅です。町屋造りの家屋としては町内で最も古く、多くの古文書が所蔵されています。池上家は、高遠城下で醤油や酢の自家醸造や販売を営みながら、代々町の重職を務めました。		
	○特別企画展示の開催（年2回）			
達 成 状 況	○企画展 「ひな人形展」 2/6～4/26 49日開催 896人 「五月人形展」 4/30～6/23 26日開催 93人			
	○体験イベント 春のお茶会、秋のお茶会は新型コロナの感染防止のため中止 しめ縄教室 12/13 12人 【参考】年間入館者数2,146人（H30:4,682人、R1:6,760人） なつかし館は、館内のリニューアルと資料整理を実施し、休憩やミニ講座なども可能なフリースペースを新設しました。 馬島家は、LED 化工事を実施すると共に、未整理のままであった土蔵を整理し、古い民具などの資料を展示収納し、バックヤード見学などとして活用できるよう整備しました。			
事業の課題及び方向性	【課 題】入館者を更に増やすために、昔を体験できる施設として広くPRし、利活用を図る必要があります。 【方向性】リニューアルに併せ、新たな企画展、体験講座などを実施しながら、集客できる施設運営に努めます。			
自己評価	A			



旧馬島家（県宝）



旧池上家（市指定文化財）

事務事業	No.38	旧井澤家住宅	R2 年度決算額	1,700 千円
事業の目的	伊那街道伊那部宿の宿内で唯一の本棟造で最古の建物を保存するとともに、一般公開し活用を図ります。			
事業内容	○管理・運営を地元「伊那部宿を考える会」に委託 ○一般公開			
達成状況	○「刺繍展」、「野点と屋外琴演奏会」、「中秋の名月オカラコ作り」などの行事を実施しましたが、新型コロナウイルスの影響によりその他予定していた行事を中止し、利用者数は減少しました。 ○アフターコロナも見据えながら来館者を迎えるため、和室の障子の張替え、庭木の管理を行いました。 【参考】入館者数 150 人（R1：1,263 人）			
事業の課題及び方向性	【課題】地元の歴史的施設として有効に活用するとともに、周辺施設とも関連させながら、常に魅力ある運営を継続して進める必要があります。 【方向性】地元の伊那部宿の貴重な歴史資料を生かし、多くの来館者を誘客できる施設となるよう委託先と連携しながら進めます。			
自己評価	B			

事務事業	No.39	民俗文化の伝承	R2 年度決算額	0 千円
事業の目的	「山寺のやきもち踊り」や「中尾歌舞伎」、「高遠囃子」などの民俗文化を継承する活動を支援します。			
事業内容	民俗文化の継承を図るため、国・県・市の補助・助成制度を活用した支援を行います。			
達成状況	○伝統文化親子教室事業（文化庁）を活用（7 団体） ○中尾歌舞伎継承のための取組 ・中尾歌舞伎の魅力発信、後継者育成を目的とした体験型事業「歌舞伎なりきり体験」を企画しました。			
事業の課題及び方向性	【課題】人口減少・少子高齢化が進み地域の活力が乏しくなる中、住民自らが地域の民俗文化の伝承意識を持ち、継続的また長期的に活動できる体制づくりが必要です。 【方向性】有利な財源を活用しながら、伝承における人材発掘と育成を進めます。			
自己評価	B			

事務事業	No.40	市誌編さん	R2 年度決算額	11,827 千円
事業の目的	伊那市の変遷を顧み、市民の郷土に対する関心と愛情を深め、将来の伊那市の発展に資する『伊那市誌』を編さんする。			
事業内容	○伊那市誌編さん委員会の開催 ○伊那市誌編さん室の整備工事の実施 ○歴史資料のデジタル化事業の実施			
達成状況	○伊那市誌編さん委員会（委員 13 名）を組織し、編さん分野やテーマの検討を行いました。 ○旧美篤子育て支援センターを伊那市誌編さん室とするため必要な整備工事（照明設備の増設、トイレ改修等）を行いました。 ○高遠の歴史研究のために、幕末高遠藩重臣「岡村菊叟史料」（早稲田大学図書館所蔵）のデジタル化を行いました。			
事業の課題及び方向性	【課題】 地域史研究者の高齢化や減少、地域資料への無関心化による個人所有の歴史資料の散逸を防ぎ、保全していくことが求められています。 【方向性】 公文書や博物館等所蔵資料を含めた地域資料を、地域の資源として 保全していく体制の検討を進めていきます。			
自己評価	A			



編さん委員会の様子



市誌編さん室



(3) 文化芸術施設の充実及び活用

事務事業	No.4 1	創造館	R2 年度決算額	35,091 千円
 マスコットキャラクター 「つくルン」 事業内容	市民の憩いの場及び生涯学習の場として、施設の管理運営を行うとともに、「縄文から宇宙まで」をテーマに自然科学、宇宙、考古、歴史・民俗、芸術、環境などに関する独創的な事業を実施し、夢多き未来に向かって人類の進化の礎である「創造」を実践します。			
	○ 自主事業 ・講演会、講座等の開催			
	○ 常設展示			
	展 示 場 所	展 示 内 容		
	常設展示室	日本で最も美しい石器「御子柴遺跡出土石器群」、縄文の神秘「顔面付釣手形土器」の「国重要文化財」をはじめとした主に考古資料の展示		
	井月展示室	井月顕彰会から帰宅を受けた井月の短冊や扇子、柱掛けなど真筆を中心に展示。		
	地質展示室	岩石の標本やアンモナイトやカキの化石、		
	昭和の図書館	伊那市創造館の前身は昭和5年に建築された上伊那図書館です。昭和モダンな雰囲気に浸ることが出来ます。		
	○ 企画展、特別展の開催			
	○ 貸館業務 ・学習室、体験教室1、体験教室2、講堂			
○ 資料の保管				
達成状況	【講演会】 第24 回企画展講演会「JICA 海外協力隊員の私が見たインド北部の養蚕農家—二年間を通して見えた伊那谷とのつながり—」 参加者 55 人 【講座等】 宇宙の学校（4回）、地球の学校（4回）、夏の体験教室、秋冬の体験教室、学校単位での見学受け入れ、自主制作映画祭 延参加者 779 人 【常設展示】 神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器（国重要文化財） 【企画展・特別展展示】 延観覧者 9,344 人 第24 回企画展「インドシルク 手しごとと伊那谷の未来」（10 月 23 日～11 月 23 日） 第25 回企画展「新宿と伊那のものづくり展」（2 月 20 日～5 月 31 日） 特別展 「開館 10 周年記念展」（5 月 22 日～7 月 22 日） 特別展 「井月をめぐる旅 俳人：相子智恵×版画：田嶋健」（9 月 3 日～11 月 30 日） 特別展 「禁煙友愛会 65 年の歩み展」（3 月 31 日～6 月 21 日） 【貸館】 延利用者 7,646 人 【参考】 R2 開館日数 267 日、利用者数 17,128 人 密にならないよう定員を半分程度に減らすなど、コロナ対策を実施しながら、行事を開催しました。			
事業の課題及び方向性	【課 題】 他の社会教育施設との事業内容の棲み分けを図るとともに、連携・協働を推進する必要があります。 【方向性】 未来を担う子どもが、興味を持つプログラムや、ユニークで魅力ある事業を実践するとともに、学習と交流の拠点施設として、利用しやすい館の運営に努めます。			
自己評価	B			

事 務 事 業	No.4 2	高遠町歴史博物館	R2 年度決算額	27,433 千円
事業の目的	市民の歴史文化に係る学習と教養の向上を図るため、地域の歴史と文化に関する資料を収集、保管、展示します。また、市の観光にも寄与するため広く情報を発信し、資料の活用を通じた文化交流を図ります。			
事業内容	○常設展示			
	展 示 場 所	展 示 内 容		
	桜シアター	高遠城址公園に咲く桜映像　VR体験		
	山車展示室	貴船社・仲町の山車、鉾持神社の幟、祭の衣装など高遠の祭に関係するもの		
	第1展示室 （特別展会場となる場合あり）	守屋貞治延命地藏　　高遠で発掘された埋蔵文化財 高遠城のジオラマや絵図などの高遠城関係資料 高遠藩主内藤家の調度品、内藤家奉納武具、古文書 高遠藩ゆかりの武器・武具 絵島が囲み屋敷で過ごした間に使用したもの		
	第2展示室	藩校進徳館と「高遠の学」 阪本天山、伊澤修二、伊澤多喜男、中村弥六など地域の先人たち		
	第3展示室 （特別展会場となる場合あり）	中村不折の書画、池上家三代の絵画 城下町のジオラマ、中馬・杣・石工の道具など一人々のくらし 石仏師守屋貞治、高遠焼		
	絵島囲み屋敷	江戸時代大奥で6代将軍家宣の側室月光院に仕えた絵島が、将軍家の墓参の帰路、芝居見物をして帰城が遅れ、公務をおろそかにしたとして罪に問われ、高遠へ遠流となった当時の復原屋敷を展示		
	○特別展の開催			
達成状況	【特別展】 第66回特別展　ふるさとごはんの300年　（3月7日～9月6日） 第67回特別展　出征兵士と家族の肖像展2020　（7月18日～8月23日） 第68回特別展　高遠と文学　時代を越えて伝わり伝わる言の葉　（9月12日～12月6日） 第69回特別展　上伊那郡市小中学生新聞展　（10月17日～11月8日）			
	【講座】 歴博講座（年3回）　参加者数　延べ197人 歴博古文書講座（3クラス、年5回ずつ）　　参加者数　延べ228人 歴博カフェ（年3回）　参加者数　延べ68人 歴博わくわく教室（年3回）　参加者数　夏：18人　秋：153人、冬：43人			
	【施設整備】 絵島囲み屋敷修繕工事など			
	【その他】 地域文化デジタル化事業			
	【参考】 ・R2　年間入館者数7,424人　（H30：17,244人、R1：19,645人） コロナウイルス対策として、行事の延期、中止、また、密を避けるため人数の制限などを行い、安全な行事の実施に努めました。 イベント開催など、国立信州高遠青少年自然の家と連携した事業を行いました。			
事業の課題及び方向性	【課　題】市民の歴史文化の学習と教養の向上のために、所蔵資料の活用、情報発信、他の自治体との文化交流を図る必要があります。 【方向性】市民が館の取組を知り、伊那の地を愛する思いを高めてもらうよう、魅力ある特別展や講座を企画していきます。 引き続き、国立信州高遠青少年自然の家など、他団体と連携を図りながら事業を行っていきます。			
自己評価	B			

事 務 事 業	No.4 3	信州高遠美術館	R2 年度決算額	27,631 千円																
事業の目的	地域の方々や伊那市を訪れる方々が芸術文化に触れ、親しんでもらう機会を提供するため、美術館を運営します。																			
事業内容	○収蔵作品展 原田政雄画伯寄贈の作品や、地元出身の中村不折、池上秀畝、江崎孝坪らの作品、平山郁夫、中川紀元など郷土ゆかりの作家の収蔵作品を展示 ○市民ギャラリー展 地元で活躍している作家やグループ、高校生、保育園児などの作品展示 ○企画展 観桜期特別展や市内外で活躍する作家の作品展、若手作家支援のための作品展 ○アートスクール・楽楽講座 地元芸術家の指導と協力による、陶芸、絵画、書道などの講座開催 ○ミュージアムコンサート 弦楽器やピアノなど市内外で活躍中の演奏家によるコンサート ○美術大学との連携事業 東京藝術大学の講師・学生及び地域住民とともに伊那市の魅力について考え発信する、芸術文化の拠点づくり																			
達成状況	作品鑑賞にとどまることなく、芸術講座などを積極的に企画し、市民の芸術文化の向上に寄与しています。 ○令和2年度企画展 <table><tr><th>テ</th><th>マ</th><th>内</th><th>容</th></tr><tr><td>昇華と深化の画人 ー中島千波ー (3月7日～5月10日)</td><td></td><td colspan="2">小布施町のおぶせミュージアム・中島千波館所蔵の「さくら」をテーマにした作品など約60点を展示。(新型コロナウイルス感染防止のため、4/8～5/10 臨時休館)</td></tr><tr><td>津野祐次写真展 (9月5日～11月8日)</td><td></td><td colspan="2">山岳写真家の津野祐次氏のバラと伊那市の風景を中心とした写真約90点を展示。</td></tr><tr><td>春季収蔵作品展 ー文化が結ぶ縁の物語ー (3月6日～5月9日)</td><td></td><td colspan="2">東京藝大との交流や企画展開催が縁で取得した作品、また、原田政雄氏が作家との交流を通じて収集した作品や郷土作家の作品など、土地と人が育んだ文化が結んだ縁から収蔵した作品約80点を展示。</td></tr></table> ○ミュージアムコンサート 予定していたヴァイオリンとチェロのアンサンブル、川畠成道ヴァイオリンリサイタルは、新型コロナウイルス感染防止のため中止しました。 ○美術大学との連携事業 東京藝術大学の講師・学生による子どもワークショップ、住民との交流会は、新型コロナウイルス感染防止のため中止しましたが、高遠町塩俣の古民家に滞在し芸術活動を行う東京藝術大学の学生を支援しました。 【参考】入館者数2,445人 (H30:16,558人、R1:10,466人) コロナ禍の中、予定していた事業が一部実施できませんでしたが、津野祐次写真展は県の地域発元気づくり支援金を活用し実施しました。				テ	マ	内	容	昇華と深化の画人 ー中島千波ー (3月7日～5月10日)		小布施町のおぶせミュージアム・中島千波館所蔵の「さくら」をテーマにした作品など約60点を展示。(新型コロナウイルス感染防止のため、4/8～5/10 臨時休館)		津野祐次写真展 (9月5日～11月8日)		山岳写真家の津野祐次氏のバラと伊那市の風景を中心とした写真約90点を展示。		春季収蔵作品展 ー文化が結ぶ縁の物語ー (3月6日～5月9日)		東京藝大との交流や企画展開催が縁で取得した作品、また、原田政雄氏が作家との交流を通じて収集した作品や郷土作家の作品など、土地と人が育んだ文化が結んだ縁から収蔵した作品約80点を展示。	
テ	マ	内	容																	
昇華と深化の画人 ー中島千波ー (3月7日～5月10日)		小布施町のおぶせミュージアム・中島千波館所蔵の「さくら」をテーマにした作品など約60点を展示。(新型コロナウイルス感染防止のため、4/8～5/10 臨時休館)																		
津野祐次写真展 (9月5日～11月8日)		山岳写真家の津野祐次氏のバラと伊那市の風景を中心とした写真約90点を展示。																		
春季収蔵作品展 ー文化が結ぶ縁の物語ー (3月6日～5月9日)		東京藝大との交流や企画展開催が縁で取得した作品、また、原田政雄氏が作家との交流を通じて収集した作品や郷土作家の作品など、土地と人が育んだ文化が結んだ縁から収蔵した作品約80点を展示。																		
事業の課題及び方向性	【課 題】コロナ後を見据え、さらなる文化芸術活動の振興のため、裾野を広める事業や参加しやすい事業の検討が必要です。 【方向性】新しい目線での魅力ある企画展示、講座の開催などを通じて、市民が芸術文化に触れ、美術館に親しんでもらえる機会を積極的に提供すると共に、引き続き、東京藝術大学や、関係諸団体などと連携を図りながら事業を推進します。																			
自己評価	B																			

【参 考】

令和3年度 教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書
追加・廃止事業及び前年度自己評価から変更のあった事業にかかる評価理由

1 追加事業

No.4 0	市誌編さん	
伊那市の変遷を顧み、市民の郷土に対する関心と愛情を深め、将来の伊那市の発展に資する『伊那市誌』を編さんする。		

2 廃止事業

No.	該当なし	

3 前年度自己評価から変更のあった事業

No.6	学力向上	B→A
中学校の長期休業中（夏・春）に「中学生の自習室」を新たに開設した。		
No.1 3	信州大学・東京藝術大学との連携	B→C
新型コロナウイルス感染症感染防止対策により、外部との接触を避けるため、相互協力による専門性のある連携事業の取組ができなかった。		
No.2 0	学童クラブ	B→A
新型コロナウイルス感染拡大による小学校休校措置期間に臨時学童クラブを 27 日間開所すると共に、年間を通し感染防止対策をとりながら開所し、保護者の就労支援や児童の健全育成に努めた。		
No.2 1	青少年育成対策	B→C
新型コロナウイルス感染拡大により、わんぱく広場や各地区行事の中止が多く、思うような健全育成事業が展開できなかった。		
No.2 2	成人式	B→C
新型コロナウイルス感染拡大により開催できなかった。		
No.2 4	桜大学	B→C
新型コロナウイルス感染拡大により、多くの講座が開催できず、計画どおりの学びの場が提供できなかった。		
No.2 5	長谷生涯学習講演会	C→A
コロナ禍にあって適切な感染症対策のもと安全に実施できた。広く広報を行いながら、前年を上回る多くの方に聴講いただけた。		
No.2 9	公民館建設	B→A
地元や関係者などと協議を進めながら予定どおり進捗している。		
No.3 0	公民館共同事業	B→C
新型コロナウイルス感染拡大により事業が開催できず、青少年の健全育成と家庭教育の充実を全市統一的に図ることができなかった。		
No.3 5	進徳館の日	B→C
新型コロナウイルス感染拡大により開催できず、進徳館教育からの学びの場が持てなかった。		

伊那市教育委員会評価委員による意見

伊那市教育委員会評価委員による意見

1 教育委員会の自己評価について

「妥当」である。(3名)

【理由】 コロナ禍の中での事業推進であったことにより、できなかったことや十分に成果につながらなかったことが正当に評価されている。

2 伊那市の教育行政及び事務事業全般について

- (1) 市民の目線で多岐にわたった事業をしっかり推進されていることが感じられる。
- (2) 伊那市出身の著名な方が多くいることを広く知ってもらうとともに、どんな方でも交流できるイベントなどに協力いただき、広く伊那の良さを紹介していただくなどして、伊那市が活気あふれる地域、子どもから高齢者まで住みやすい地域になることを期待している。
- (3) コロナの影響で、多くの人が集まり、実際に触れて体験するということが困難であり、計画どおりに事業が出来なかった中で、可能な限りの計画を進めていこうとした努力が見える。
- (4) 子どもたちを取り巻く環境は、ICT教育の発展や一人一台タブレット端末の支給など、日々環境が変わっていく中で、子どもたちが興味を持ちやすく、また便利なものを活用することは良いことである一方、人と人とのふれあいや子どもの笑い声が聞けなくなっているようにも感じる。人とのふれあいを前提としたバランスの取れた使い分けと活用を望む。
- (5) 千葉県での痛ましい事故を踏まえ通学路の危険箇所について関係機関が関わりながら点検作業等が進められているが、検討の状況や具体的な対応策について保護者や市民に分かりやすく伝わるよう事務を進めてもらいたい。
- (6) 伊那市にはイベントをする場所が無い。以前、伊那市を活気づけようとイベントを行い、千人近い人が集まったが、駐車場等での苦情があり数回で取り止めとなってしまった。他市町村での整備状況等を参考にされ、何らかの施設の跡地を有効に活用するなど、伊那市においても心置きなく大勢の集客が可能となるイベント会場の整備を望む。

3 各事務事業について

No.	事務事業等	意見等
2	キャリア教育の推進	「郷土愛プロジェクト」によるキャリア教育の推進については、伊那市が中心的な役割を担い、地域と子どもたちとのつながり、中学生と高校生との連携などを高め、郷土のことを考える取組として今後も引き続き推進していただきたい。 オンラインでキャリアフェスを実施する場合、出展ブースは大手企業などに偏ってしまい、出展してもアクセスしてもらえない企業もあるのではないかと。バランスよくブースにアクセスし、多くの企業を回れるよう配慮の検討を願いたい。 企業の中にはオンラインでは伝えたいことが伝わらないとして、参加を辞退した企業もあると聞いた。体験して伝えたいこと、伝わることがある中で、オンラインだけではないハイブリット形式による実施の検討を望む。 参加企業側は、単なる宣伝にならぬよう、伝えたいことの視点を明確にし、将来子どもたちがどんな仕事に就きたいか、そのためにどんな進路を選択すべきかを考えるきっかけの場となる開催方法を望む。
4 ・ 11	読書活動の推進 ・ 高等学校振興	「本の読み聞かせ」について、高校生が保育園児や小学生に読み聞かせを行うことで、高校生は異年齢交流によって、養護的行動を引き出し、社会的スキルを身につける機会になり、さらに、自己有用感を持たせることができる考える。また小学生や保育園児にとっても異年齢交流により、よい成長の助けとなると考える。経験上、大学生と小学生、高校生と保育園児との交流を通して、双方に良い影響があったことを体験している。高校の総合的な探究の時間や長期休業を利用して、一時的ではない年間の計画のもとに、近隣の小学校か保育園に高校生が出向いて交流をする取組の検討を願う。
5 ・ 6 ・ 14 ・ 15	学校備品整備・情報教育 ・ 学力向上 ・ 中間教室 ・ 不登校児童生徒支援ネットワーク	伊那市には他市町村にはない「ICT活用教育推進センター」があり、小・中学校へのICT教育の推進においては、県内トップを走っている。 「学びを止めない」という考えのもと、不登校の児童生徒等、学校に行けない子どもたちのためにもさらにICT教育の推進をしていただきたい。 その中で、子どもの居場所となる中間教室やフリースクール、自宅などにICTを活用して学ぶことができる仕組みづくりができるとよいと考える。 学校に行きたくない子どもが、学校の授業をそのまま受け入れられるかは未知数であるが、事情により不登校となってしまった子どもたちにも平等に授業を受けられるよう、オンラインでの授業の実現、ネットワークの整備と環境の充実、学校でなくても気軽に行けて学習する場所などの環境整備を望む。
6	学力向上	基本的に自主学習は自宅するのが第一であるが、場所を変えることでより集中できることもある。市で開放している自主学習の場として、いなっせや図書館、創造館は席が十分になく入れない場合もある。より身近な各地区の公民館や公会堂などを寺子屋的な場所として開放していただきたい。
13	信州大学・東京藝術大学との連携	学校での教育方法や内容は、時代と共に変わってきており、多種多様な幅広い内容とより専門性のあるものとなってきている。南信工科短大と連携した、ものづくりスペシャリストの育成への取組にも期待したい。
18	スクールカウンセラーの配置	相談件数が増えている状況である中であって、さらにコロナ禍で家庭の状況も変わり、その影響が子どもにも出てきており、重要性、必要性を強く感じているところ。市もできる限りの対応を継続しながら、県への配当時間の増加要望を引き続き行っていただきたい。

19	青少年補導委員会・ 少年補導センター	特にコロナ禍においては、いつだれが感染してもおかしくない状況下で、誹謗中傷や嘘や噂を鵜呑みにしない、聞いたことに対して事実に基づかない事柄に対しては自分のところで止めるなど、思いやりの気持ちを育てる環境づくりを進めるよう望む。
21 ・ 23 ・ 30	青少年育成対策 市民大学・市民大学 大学院 公民館共同事業	子ども会・育成会の支援は大事である。多くの地域の大人が地域の子どもたちに関心を持ち、適切に声かけられる大人たちの意識改革が必要。 市内の学校の中には運動会に地域の人皆が参加できる学校もある。そんな雰囲気は今必要であり、公民館活動や市民大学などの講座で啓発をぜひ願いたい。
32	蔵書管理	「知の拠点」として、市内の図書館だけでなく、県立図書館や他の市町村の図書館と連携した図書館システムの構築を望む。また、県立図書館のような「学び創造ラボ」のようなスペースが伊那市の図書館にできるとよい。
41	創造館	放課後の高校生の学習スペースとして活用させていただき、感謝している。いなっせの学習スペースやアルラなど、高校生が利用できる施設の継続的な運営をお願いしたい。
35 ・ 42 ・ 43	進徳館の日 高遠町歴史博物館 信州高遠美術館	高遠の文化は、伊那市の重要な財産であると考え。観光や社会教育の面で連携を図りながら、今後も引き続き大事にしていただきたい。 商工観光部の高遠石工に焦点を当てたイベント等とのタイアップもよいのではないか。
42 ・ 43	高遠町歴史博物館 信州高遠美術館	信州高遠青少年自然の家は全県的に見てもかなり施設が整っているし、充実している。それが地元にあるのだから、是非連携した取組を充実してしてもらいたい。また、市外から来る利用者との交流などを図り、地元での活用策の推進を望む。
43	信州高遠美術館	東京藝術大学との連携を行っているのであれば、美術だけでなく音楽部門も取り入れて、美術と音楽を融合したイベントを行ってはいかがか。色々なところと連携した取組としての模索をしていく必要がある。 美術館での展覧会はどうしても専門的な芸術性のあるものというイメージであるが、もっと一般市民の趣味的な作品なども気軽に展示できたり、イベントもできるなど使いやすい美術館となる仕組みになるとよい。

令和3年度

伊那市教育委員会評価委員

伊那弥生ヶ丘高等学校長

中部PTA連合会会長

伊那市女性人材バンク

松村 明

三澤 一成

網野 和子